

花時計

No.22

川村学園女子大学

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
Tel.04-7183-0111(代) Fax.04-7183-0115
ホームページ <http://www.kgwu.ac.jp/>



原点・回帰



Masazumi Kawamura

1903年(明治36)、エジンバラ市内の公園に、文字盤の針は約1メートル超、時針1本の時計が誕生した。私達が現在、花時計と呼んでいるものの第1号である。当時イギリスではじゅうたん花壇が普及し、加えて、イギリス庭園には日時計が見慣れた光景であったことが、この地でそれを誕生させこととなったのではないかろうか。日本では1957年(昭和32)、神戸市に直径が6m、15度に傾斜させた国内最初の花時計が産声を上げた。

本学においては開学4年目の1991年(平成3)6月、水と緑の田園文化都市・我孫子に、時針の長さが1.27メートル、分針の長さが1.74メートル12、3、6、9の文字をシルバーに輝かせた小さな花時計が完成した。それは正門すぐ左にあって、時を報せ、季節の顔を覗かせる笑顔の門番といったところであろうか。

「感謝の心」「社会への奉仕」「自覚ある女性」という学園の教育理念を大学教育に取り入れた本学の教育方針は、広く社会に受け入れられ、これまでに、「人間性と品性」をベースとして「豊かな教養」を備えた多数の卒業生を送り出してきた。この間、前学長川村澄子先生のもと教育学部増設、

学長 川村 正澄

大学院の設置及び人間文化学部増設、その大学院においては博士後期課程を開設するなど、教育研究の充実向上を図り、それらに伴う施設設備の充実拡張とも合わせ、常に時代のニーズ・社会のニーズに鑑みた発展を遂げてきた。大学教育を取り巻く環境は未曾有の厳しい局面を迎え、本学においても今後、変えていかなければならないこと、変えてはならないこと等の見極めが非常に大事であり、その重責を深く受けとめている。

エジンバラの花時計は100年の時を越え、今もその地で活躍し続け、神戸においては1995年(平成7)、阪神淡路大震災後に一時停止はしたが「よみがえれ神戸! がんばれ神戸っ子!」と書かれたプレートをつけて、見事な復活をとげた。本学の花時計は、現在、その姿を見ることはできない。しかし、来春にはまた、生彩に富んだその姿を私達の前に現してくれるであろう。

在学生、卒業生をはじめとする本学園に関係する皆様に、大学の「今」をお伝えするために創刊された学内紙『花時計』、今後も、新たに始動する花時計と共に、一歩一歩「季節の時報」を知らせていくものである。

新しい顔

新任教員



岡村 豊

教育学部長 社会教育学科 教授

学校教育の基本的分野と社会教育の分野を備えることで教育全体をカバーする学部であること、素質のよい学生が多いことを勇気の糧としつつ、知的集中力を維持し続けたいと考えています。



箕輪潤子

幼児教育学科 講師

保育士資格関連科目を担当しています。保育所で非常勤職員をしていた経験を生かし、授業の中で子どもたちの話をたくさんしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



川嶋健太郎

心理学科 助手

専門は学習心理・行動分析です。人間や動物がどのように学習をしていくのかを研究しています。特に報酬がもらえるまでにしばらく待たなければいけない場合に、待っている時間によってその報酬の価値がどれだけ低下していくのかについて調べています。心理の学生研究室にいますので、心理のレポートの書き方や統計のやり方、卒業論文での相談など、気軽に声を掛けてください。

新任職員



高島裕子

庶務課



堀谷直喜

財務課

出版活動



梅村恵子

『家族の古代史 恋愛・結婚・子育て』

●2007.3月刊行

●定価1,700円(税込) 吉川弘文館

夫婦別姓の問題や未届婚の増加など、多様化する現代の「家族のあり方」に対して、「家族の絆」を強調し、日本の伝統的な家族の見直しを求める声が高い。では「日本古来の家族のかたち」とは、どのようなものであったのだろうか。敦煌文書に残る離縁状から、藤原道長の家族まで、正妻の誕生、父親の子供への関わり方、女性の財産形成などを語る。

異動教員

教育学部長→人間文化学部長
北村浩一郎(教授) 社会教育学科から生活文化学科へ

教員の退任

倉智恒夫(教授)
日本文化学科大熊保彦(教授)
心理学科本郷健(教授)
情報コミュニケーション学科加藤雅晴(教授)
社会教育学科小林由利子(教授)
幼児教育学科早川克巳(教授)
生活文化学科高橋(細井)香(講師)
幼児教育学科本多麻子(助手)
心理学科

●ゴルフ部

私達ゴルフ部は、楽しく、そして日々技術の向上を目標に活動しています。多くの人々から親しまれ、最近ブームになっているゴルフですが、実際にやってみるとその理由がよくわかります。適度な運動になり、気付くと夢中になってしまっているところが、ゴルフの魅力であると思います。

ゴルフの練習以外にも5月には新入生歓迎会を行ったり、昨年の学園祭では模擬店をやりました。

これからも、学校や練習場での人々のふれあいの中からいろいろな刺激を感じ取り、充実した課外活動にしていきたいと思います。



クラブ活動報告

●華道部

私達華道部は、草月流の先生に教えていただきながら、月に3回活動をしています。学園祭では、個人の作品と、部員全員で協力して制作した作品を展示し、クリスマスの時期になると、リースを制作しています。また、花の個性を引き出し、より美しく見せるために、色の配置の仕方も学んでいます。

華道部で色々な花を見ることで、花の名前や、四季折々の花を知ることが出来るなど、花に関する多くの知識を得ることができます。また、どの角度からも花が見えるように考えながら花を生けるので、一つの物を複数の視点から見ることが出来るようになります。活動を続けていれば草月流の資格を得ることも出来ます。

花を綺麗に生ける技術を学びながら、みんなリラックスした雰囲気で楽しく活動しています。

子どもと携帯電話(「子どもたちのITに関する調査研究」から)

社会教育学科 准教授 藤原昌樹

女子大生の生活に欠かせないもの。その一つに「携帯電話」が挙げられるのではないかだろうか。テレビ、音楽プレイヤー、インターネット、メール、ゲーム、カメラなど次々と新しい価値が追加され、もはや単に「電話」だけのツールではなくなってきている。

近年、携帯電話を含めたパソコン、テレビ、テレビゲームなどのメディア機器の所有率や接触時間の増加は低年齢化の一途をたどっており、それにより屋外での遊び時間の減少、友だち関係の希薄化などの問題点が指摘されている。こうしたことば子どもたちの自立心や社会性の育成に何らかの影響を及ぼす可能性も考えられる。

そこで、平成17年度川村学園女子大学奨励研究(「子どもたちのITに関する調査研究」斎藤哲郎、本郷健、本村猛能、藤原昌樹)において、子どもたちとメディア機器との関係について調査を行った。ここでは

特に携帯電話に関して報告しようと思う。

なお調査は、1都3県から24校(東京都10校、茨城県2校、千葉県6校、神奈川県6校)の小中学校を選定し、小学生1,094名、中学生911名の合計2,005名から回答を得た。また、対象学年は小学5年生、中学2年生とした。

1. 自分専用として持っているメディア機器

メディア機器として「テレビ」「テレビゲーム」「ビデオデッキ」「CDプレーヤー」「DVDプレーヤー」「携帯電話」「パソコン」「デジタルカメラ」「スキャナ」「プリンター」の10種類を挙げ、それぞれについて自分専用として所持しているか尋ねたところ、小学生では「テレビゲーム」75.6%、「テレビ」28.6%、「携帯電話」27.2%の順に多く、中学生では「テレビゲーム」63.5%、「CDプレーヤー」56.9%、「携帯電話」44.8%の順に多かつた。これを性別に見てみると、「テレビゲーム」は男子84.7%に対し女子53.3%と男子が高く、「携帯電話」は女子56.0%に対し男子34.5%と女子の所持率が高いという結果であった。

2. 携帯電話の使用状況

1日のメールの回数については、小学生では「ほとんどしない」49.6%、「1~5回」25.2%であったのに対し、中学生では「20回以上」41.0%、「10回以上」21.6%と著しく使用頻度が高くなっている。また1日の通話の回数については、「ほとんどしない」と「1~5回」を合わせると、小学生が91.1%、中学生も95.2%という結果であった。このことから、小学生は携帯電話を持っているが、メール、通話ともあまり使用しておらず、中学生は通話はほとんどしないもののメールの頻度は非常に高いという結果が得られた。なお、携帯電話を持つようになった理由として、中学生では「友だちとメールをしたいから」70.5%が最も高く、メールをすること自体を目的として所持したという回答が得られた。(表1、表2参照)

3. まとめ

以上のような調査結果から、学年が上がるにつれてメディア機器の所持率および使用時間が増加する傾向が見られた。また、中学生では友だちへの相談方法としてメールを利用する頻度が高くなっているが、学年が上がるにつれてますますその傾向が強くなることが予想される。このような「相手の顔を見ない」コミュニケーションが、子どもたちの人間関係や社会性の育成にどのような影響を及ぼすかを今後の研究課題として探っていきたい。

学生の表彰

第17回伊藤園おーいお茶新俳句大賞に入賞



166万句の応募があり、入賞は3000句でした。入賞に生活文化学科4年生千村恵子さんの次の句が選ばされました。

ひしゃく
寒空の星を柄杓でひとすくい
「おーいお茶」商品に掲載されます。

表1 1日のメールの回数

問11-1(1).1日のメールの回数は						
	ほとんどしない	1~5回	5~10回	10回以上	20回以上	合計
問2. 学年別 度数	112	57	25	22	10	226
	問2. 学年別 の %	49.6%	25.2%	11.1%	4.4%	100.0%
問2. 学年別 度数	46	86	63	113	214	522
	問2. 学年別 の %	8.8%	16.5%	12.1%	21.6%	100.0%
合計 度数	158	143	88	135	224	748
	問2. 学年別 の %	21.1%	19.1%	11.8%	18.0%	29.9%

表2 1日の携帯電話の回数

問11-1(2).1日の携帯電話の回数は						
	ほとんどしない	1~5回	5~10回	10回以上	20回以上	合計
問2. 学年別 度数	99	107	13	7	0	226
	問2. 学年別 の %	43.8%	47.3%	5.8%	3.1%	100.0%
問2. 学年別 度数	369	138	11	6	8	523
	問2. 学年別 の %	68.8%	26.4%	2.1%	1.1%	100.0%
合計 度数	459	245	24	13	8	749
	問2. 学年別 の %	61.3%	32.7%	3.2%	1.1%	100.0%

オリエンテーションレポート



国際英語学科

新入生オリエンテーション～芸術に触れよう！親睦を深めよう！～ 上野の東京都美術館で開催している『オルセー美術館展』を見学しました。大変人気のある展覧会で、入场制限されるほど混雑していましたが、音声ガイドを聞きながら、じっくり鑑賞できました。その後は、レストランに場所を移し、昼食をとりながら、楽しい時間を過ごしました。4年生による英語での教員紹介や英語劇も盛り上がり、あっという間の1日でした。



情報コミュニケーション学科

バスでまず、「川村記念美術館」へ行き、各自好みの昼食をとった後、自己紹介や美術品を鑑賞しました。その後、「房総のむら」を訪れ、日本の旧家を見たり、「千代紙ろうそく」作りを体験しました。本学科の新入生は全体としてまとまりがあり、集合や出発もスケジュール通りにいったとともに皆が楽しく充実したオリエンテーションでした。



日本文化学科

笠間の県立陶芸美術館で人間国宝の作品を鑑賞、つづいて工芸の丘では陶器への絵付け体験をたのしみ、お昼は春らしい特注の弁当をいただきながらの自己紹介。締めは枝垂れ桜の美しい春風萬里荘。たのしい一日となりました。

史学科

4月6日に栃木県の足利学校を訪ね、あしかがフラワーパークでお昼をとりながら、みんなで自己紹介をして親睦を深めました。5月12日の第2回目は、東京国立博物館を見学し、「大地の贈り物」でバイキングを楽しみました。新しい友達ができるきっかけになり、にぎやかなオリエンテーションになりました。



社会教育学科

4月6日、上野公園にある国立教育政策研究所社会教育実践研究センターを訪ね、馬場センター長から文部科学省の生涯学習施策や社会教育実践センターの役割等について学習。午後は、鈴木演芸場で江戸時代からの文化の一端を触れるなど、有意義な一時を過ごしました。

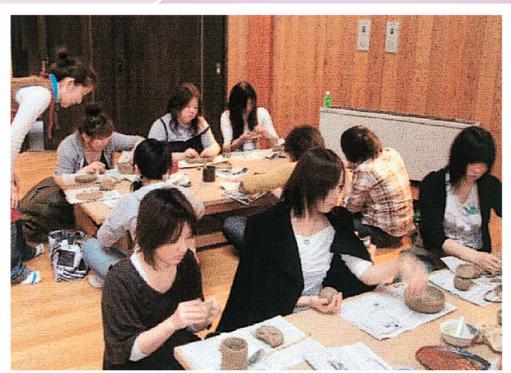


観光文化学科

栃木県益子町にある益子焼の窯元で、ろくろを使った陶器作り体験をしました。初めての経験に失敗を重ねながらもお互い励まし合い、親睦を深めると同時に見事な作品も完成しました。益子焼の「釜」を使った釜飯を食べたりと、まさに「体験型観光」を身をもって経験することができました。



心理学科



心理学科のオリエンテーションは、茨城県の笠間芸術の森公園までバスで行き、公園内で陶芸を体験するというものでした。これは新入生たちが、粘土をこねるという作業を通じて、お互いに話し合ったり、友達作りができますと企画されたものです。バスの中や公園内での作陶および散策を通じて、会話が弾み、友達づくりや先生方との親睦ができた一日でした。一ヶ月後には焼きあがった作品が送られてくるというお土産つきで、そのときはまた、会話が弾むことでしょう。



幼稚教育学科

幼稚教育学科は葛西臨海公園の水族園のアクア・ワールドへ！マグロの豪快な回遊、極彩色の深海魚などを「魚ッチング」。大水槽に顔をつけて見入る子どもも、魚が近づいて逃げ出す子どもも「ウォッチング」。友達もできて楽しい一日でした。



生活文化学科

《文化の街：自由探訪》 新宿副都心を一望できる椿山莊で【お膳料理】を頂きながらマナーを学び、ホテルにおける食品衛生管理についてのお話を伺いました。その後、満開の桜の神田川沿い遊歩道を散策しながら、国の重要文化財【自由学園・明日館】へ移動しました。フランク・ロイド・ライトの設計による歴史的価値の高い建造物の説明を受け、明日館手作りのケーキでのティータイムを楽しみ、有意義なオリエンテーションになりました。

キャンパスから

諸外国との文化交流の架け橋となろう

“美しい国、ニッポン”は、最近の政府の標語ですが、四季折々の自然の美しさと、そこで培われ花開いたのが日本の文化・芸術です。日本文化学科では、この一千年以上つづく日本文化の特質を、多角的に理解しながら、グローバルな視



点に立って学ぶ学科です。

※日本文化の特色ある3つの履修モデル
①日本語・日本文学系…日本語・日本文學・歴史・伝統芸能・芸術などの領域を幅広く学びます。

②国際日本研究系…国際日本学研究所が開設されました。海外の情報を集めるだけでなく日本の文化を発信する人材を育てます。

③芸能・芸術・文化財系…華道（青山御流）・茶道（裏千家）・書道（謙慎会）・香道（御家流）・日舞（西川

日本文化学科

流）・日本画（奥村土牛門下）などの理論と実技を、各界の家元やトップレベルの指導者について学べます。

少人数でのゼミ形式の授業が、各人の研究テーマを見つけることに、またその個性と才能を卒論に結晶させていく非常に力を發揮しています。

【資格】

- 教員免許：中学（国語・社会）・高校（国語・公民）・日本語教員
- 図書館司書・学校図書館司書・学芸員
- カラーコーディネーター

「女性学研究所」の活動

「女性学研究所」は毎年、例会のほかに年次大会を開いています。内外から研究者を招請し、講演会や国際シンポジウム等で活発な意見交換や横断的な学問交流を深めています。こうした活動の成果として、研究紀要『女性学年報』を出版しています。ご希望の方は一部1,000円で頒布いたしますので、所長内海崎貴子までご連絡ください。主な内容は下記の通りです。

『女性学年報 創刊号』（2003年）

鼎談：「女性学研究所の未来」：若桑みどり、野村文子、今関敏子

『女性学年報 第2号』（2004年）

講演：「日本の尼門跡寺院—なぜ保存する必要があるのか」

講演者：バーバラ・ルーシュ

『女性学年報 第3号』（2005年）

シンポジウム：「良妻賢母の東西比較」

パネリスト：川端香男里、内海崎貴子、

若桑みどり、今関敏子、佐藤浩子、柚木理子

『女性学年報 第4号』（2006年）

国際シンポジウム：「布と女の創造力」

パネリスト：フローレット・メイ・ダトウイン、小勝禮子、山崎明子、上橋菜穂子、田中淑子、谷林真理子、若桑みどり

※なお、2007年度の年次大会は、シンポジウム「現代女性と社会」を予定しています。

緑多い新校舎に一服感

生活文化学科は、生活に密着した栄養・食物、健康科学、服飾・ファッショニ、女性学、環境・消費などの分野を文化・社会・自然から包括的に学べる学科である。平成12年度に創設した生活環境学科を母体にしており、平成16年度に現学科名に名称変更すると同時に、日白の第6校舎に転出し、栄養士・医療秘書実務士・カラーコーディネーター等の資格が取得できるようになった。

平成19年度からは第8校舎に移転し、1年次から4年次までの全学年が揃った。移転の際には梱包や荷解き等に学生たちは自主的に参加してくれた。引っ越し

生活文化学科

しの余韻が残存する中、教職員は授業・実験・実習・校外実習・卒業研究等に忙殺されながらも、学生たちに対して今まで以上に熱意をもって懇切丁寧に指導をしている。学生たちは、校舎内を右往左往しながらも慣れつつあり、新しい校舎で楽しみながら勉強している。日白校舎で初めて全学年が揃ったこともあり、教室やPC等備品がフル稼働しても足りず、補充や様々な工夫、譲り合いで乗り切ろうとしている。4年次生は卒業研究や就職活動に多忙を極め、就職活動では内定者も出始めており、一喜一憂している。



児童英語指導実習の体験を通して

私は、今年2月、我孫子市の小学校に児童英語指導実習に行きました。実習した授業は1年生、4～6年生の4学年でした。この実習では、子どもたちとのふれあいを大切にして、英語が苦手な子どもたちに「できた！」を増やしてあげたいという思いで臨みました。

授業の内容は、助動詞“can”を使って相手のできることを聞けるようにすることや、それまでの復習をしながら買い物の練習をすること、また英語の曲を歌うことなど、各学年のレベルに合わせたものでした。子どもたちは、大変元気で、自発的に授業に取り組んでいる印象を受けました。しかし、45分間の授業の始まりと終わりでは全く違う表情を見せ、すばらしい上達ぶりを見せ



国際英語学科4年 保科幸絵

てくれました。英語の読み方がわからなければすんで聞いてきたり、初めは友だちとかたまって動いていても、そのうちに1人でどんどん動きだして買い物ゲームをクリアしていました。

私は、特に日本語として定着している単語（ケーキなど）を英語の発音で言えるように指導しました。また、少しシャイでどうしても英語を口にできない児童には、自分のペースでいいよという気持ちで接するようにしました。すると、最後には勇気を出して英語を話してくれました。本当に、嬉しかったです。

この実習を通して、自発的に英語の授業を取り組む子どもたちの姿や、なかなか英語を口にできなくても頑張って言つてみようと思ひを出してくれたことにとても感動しました。英語の授業は仲間と関わる場面が多いので、英語と一緒に道徳を学ぶ場でもあり、それを先生方がきちんと教えていらっしゃるという点も勉強になりました。短い期間でしたが、休み時間も含め子どもたちと過ごしたひとときは本当に楽しいものでした。子どもたちに教える立場でありながら、彼らから学ぶことが多く、「今」しかできない貴重な体験ができました。

「比較文化研究センター」の活動

「比較文化研究センター」は、文化にかかわる研究を行っている教員が統一テーマを設けて研究発表を行っています。これまで、以下の研究発表が行われました。

テーマ「子ども」（平成17年度）

第1回「詩と子ども」長島一比古

第2回「パフォーマンス シーラ・ワトソンの短編から」W・キスチャック

第3回「子どもを取り巻く教育環境と課題」斎藤哲郎

第4回「子どもにかかる歌」近藤光江

第5回「日本の少年の問題を考える2「恥」」松井 洋

テーマ「旅」（平成18年度）

第1回「想像世界への旅」小林由利子

第2回「旅先で出会う先住民—アボリジニと観光—」上橋菜穂子

日本文化学科 教授 萩原 延元

赤坂・六本木界隈の美術館巡り

東京の中心部はとにかく坂が多い。赤坂・六本木周辺にも江戸時代より知られた名だたる坂がある。紀の国坂・紀尾井坂・乃木坂・鳥居坂・永坂・暗闇坂・仙台坂・狸穴坂・芋洗坂などであるが、赤坂がどの坂かは分からぬ。赤坂一丁目のアメリカ大使館前の坂を上るとホテルオークラの大倉集古館である。その外観は中国風な石造の美術館で、横山大観の名作“夜桜”・能面と装束・仏像の普賢菩薩像などが知られていて、特別企画展もしばしば催される。その近くには東京の桜の新名所となった、アーチヒルズの桜坂に住友の泉屋博古館がある。ここはとくに日本の美の選りすぐりの美術品を企画展示する。京都の南禅寺近くにもこの博古館はある。赤坂見附にもどり紀尾井坂が正面のホテルニューオータニにも美術館がある。弁慶橋から一つ木通り



を歩きTBSから乃木坂へと向かえば、今評判の東京ミッドタウンの超高層ビルがせまってる。この広いエリアは元防衛庁の施設があり、その昔は毛利家の屋敷跡であった。タワーには高級ホテルのザ・リッツ・カールトン。そしてGALLERIAゾーンの3階にはサントリー美術館（右の写真）が「美を結ぶ。美をひらく。」をメッセージテーマに、日本の絵画・陶磁・ガラス器などの“生活の美”的展示である。大名庭園であったGARDENゾーンにはDESIGN・HUB（下の写真）があり、このモダンな建物は各分野で活躍しているクリエイターと内外の学術機関が連携するデザイン情報の集積と発信の活動拠点となり、同時に21世紀デザインを企画展示している。

次にこのエリアの向かい側の竜土町には国立新美術館が黒川紀章の設計で誕生した。その隣としにはフランスのポンピドーセンターから近代・現代美術が展覧され、今は印象派のモネ

展が展覧されている。そのほか俳優座の裏手には“麻布工芸館”があり現代の工芸作家の展示を中心紹介。交差点のアマンドの横の芋洗い坂を下りれば、やがてストライブハウスがあり現代美術を楽しめる。さらにそのまま麻布十番の方へ向うと正面には森美術館のある“六本木ヒルズ”に誰もが圧倒される。私が子どもの頃の六本木界隈は、それほど人も歩いておらず“俳優座・ゴトウ花店・洋菓子クローバー・交差点角の本屋と蕎麦屋・おつな寿司、今はない中華料理の廬山”などが町の名店であった。この街がこれほど昼も夜も人で溢れるとは…。

「卒業生は今」 原稿募集のお知らせ

「花時計」は、大学での今をお伝えするために学内ばかりではなく、卒業生にもお送りしています。「卒業生は今」のコーナーでは、皆さんからのひとこと（300字程度）をお待ちしています。卒業年と学科を必ずお書き添え下さい。採用分には大学名入りの図書カードをさしあげます。

原稿宛先 川村学園女子大学広報委員会



卒業生は今

●●● MAILBOX

小林 直美

英語英文学科 (現国際英語学科)
1996年卒



「これから起こる変化を恐れず、希望を持って生きたい」そう願った時、私はもう一度大学へ行く事を決意し、アメリカミネソタ州立大学に留学しました。日本の会計学について知識がなく、授業についていくのはとても大変でしたが、毎夜大学の図書館で2時まで勉強し、授業を録音して何度も聞き、先生に沢山質問しました。卒業時会計学学位取得とHonorを頂きました。その後、カリフォルニア州にある米国公認会計士事務所に就職し、今は、同事務所の東京支局に勤めています。

ミネソタは、10月から4月まで雪が降り、夏は北海道のような爽やかな所です。一番長く生活したのは、インターナショナルスクールが4人いるアメリカ人のお宅でした。日本食材はあまり揃っていませんが、新鮮な物が置いてある片田舎の八百屋は私にとって想像力を掻き立てられる所でした。新種ネギ? 白いにんじん。初めて見る食物を見つけて日本食に似たレシピを考えました。大家さん夫妻などに、食事を作り日本文化や色々な会話を楽しめた時間を過ごしました。希望を持って思いをやり通してこれた今、行動を起こして良かったと思っています。

菊池(阿部) 百里子

史学科 1993年卒



今春、14年ぶりに母校の芝の香りに包まれた。大学時代への郷愁にうっとりしながら教室の扉を開ける。「どんな先生?」そんな瞳が一斉に教壇の私に降り注いだ。一気に緊張が走る。いけない、今日から先生なんだ。

大学では考古学を学んだ。卒業後OLになったが、自分の姿に満足できず2年で退職。大学院に進学し、海外での発掘調査に明け暮れた。中国とベトナムにも留学した。華やかなOL生活から一転、ストイックな環境に飛び込んだが、付加価値がついていく自分に満足できた。今年からは、東京大学大学院博士後期課程で学びながら、川村学園女子大学の非常勤講師をさせていただいている。最高の理解者である夫と愛娘が今の私の原動力だ。今秋新しい家族が産まれる。

藤田 啓子

心理学科 2004年卒



心理学科への編入後、修士課程を経て、現在はクリニック・児童相談所・発達障害専連の機関等で心理的な支援と、私立大学の心理学研究室で管理運営や教育・研究の補助をしております。慌ただしいながらも、より深く広く学びたいという気持ちは増すばかりで、調査研究の楽しさや興味も色鮮やかなまま、周囲の方々に支えて頂きながら充実した日々を送っております。今があるのは川村学園女子大学にて学生の考えを受け入れ親身にご指導下さった先生方と出会うことで学びの土壤を作りができたためと深く感謝しております。

菅沼 明日香

情報コミュニケーション学科
2006年卒



大学卒業後、小学校の教員免許を通信教育で取得しながら、鎌ヶ谷市内の小学校で講師として勤務しています。毎日、教えること、叱ることの難しさを改めて感じています。しかし、子ども達の笑顔や、「先生ありがとうございます!」「勉強が好きになったよ!」という言葉に励まされ、奮闘しながらも充実した日々を送っています。

大学で学んできた情報教育、中でもコミュニケーション方法や能力というのは、教師間のコミュニケーション、そして何よりも子どもとコミュニケーションを図る上でとても役に立っています。

回り道であっても、たくさんの経験を積み、子ども達と成長しながら小学校教諭という夢に向かって頑張っていきたいと思います。

近藤 真紀子

社会教育学科 2003年卒



私は社会教育学科を卒業後、(株)小田急百貨店に就職しました。現在、新宿店のギフトサロンで働いています。

私の仕事はまさに社会教育そのもので、冠婚葬祭に関する知識やマナー、進物の体裁等、毎日が勉強と感じています。

入社5年目を迎えた今、ギフトアドバイザーの資格を取得し、仕事に役立てています。お得意様にも恵まれ充実した毎日を送っています。

これからも、大学で学んだ社会教育の意義を身近に肌で感じながら、自分を磨いて行きたいです。

磯田 公子

幼児教育学科 1995年卒



卒業後、幼稚園に就職し、周囲の人に助けられ、なによりも子ども達の笑顔に励まされ、充実した8年間を過ごしました。出産を機に退職し、現在は2児の母です。今年の4月には長女が入園し、今度は親として再び幼稚園に通うようになり、勤めていた頃をふと懐かしく振り返っています。今は子育てに奮闘する毎日ですが、いつかまた子どもに関わる仕事が出来たらと密かに思い始めています。

大野 つばさ

日本文化学科 2006年卒



私は現在、某リース会社で営業業務をしています。電話対応や契約準備・処理が主な業務です。

初めは与えられた業務をこなすことで精一杯でしたが、今では幅広くサポートできるようになりました。また常に新しい仕事を任せられるので勉強になっています。社会情勢や会社について考えながら、目標に向って皆で走ることが今はすごく楽しく、充実しています。

社会の中で働くことは、責任を課せられ

ることでもありますが、それに押しつぶされることなく様々な知識やスキルを身につけ、自分を大きく成長させていきたいです。

大谷 貴美子

観光文化学科 2006年卒



私の仕事はI.Tアウトソーシングといってトランスクオスモス社の社員として、現在は取手にあるキャノン事業所に勤務しています。複合機(コピー、印刷、ファックスが一台で出来る機械)とパソコンを繋いで、複合機に送る情報をパソコン上で操作できるソフトのテストをしています。これは新しいバージョンで、まだ市場には出回っていません。新しい商品をテストする仕事にはとてもやり甲斐を感じます。日本語のみでなく、英語、フランス語、ドイツ語などのソフトもあり、その言語にあったOSをインストールしてテスト出来ることも楽しいです。観光文化学科で学んで、旅行や観光には直接関係する仕事ではありませんが、ヨーロッパの歴史や文化などの知識を身につけて今の仕事に頑張っています。

八峰 弘美

生活文化学科 2004年卒



「子どもたちと直に接する仕事をする」学生時代からそれだけを思い続けてきました。そして今、私は学習塾に勤務しています。

これだけは譲れない、諦めない、そう思えるものを見つけ、実現するまでの道は決して楽ではありません。しかし、目標や夢が見つかれば、今必要なこと、やらなければならないことは明確になります。

卒業して3年、いくつかの職場を経験し、この3年ほど長く感じた時はなかった気がします。しかし、今やっと自分が思い描いた形で子どもたちと接する職に就くことができました。生徒と共に悩み、苦しみ、仕事に追われる毎日ではありますが、それでも笑顔で卒業してくれる生徒を励みに、自らも成長していきたいと思っています。

編集後記

- 締め切り寸前に決定した「研究所の活動」報告では、掲載スペースや原稿の遅れなどで庶務課のT氏に心配をしてもらいました。編集のチームワークを実感しました!(S.S.)
- 大学が設立されて満20年になります。皆さんの期待に応えられるよう努めています。(T.S.)
- 体調をくずし、結果として不満足な編集委員となってしまった。(H.I.)
- 在学生はもとよりのこと、卒業生のその後についてもしっかり把握していかなければ…。ゼミのつながりはこういう面でも重要ですね。(R.Y.)
- 編集3年目で生まれる余裕と、強力で協力的な先生・卒業生の方々でできた記事です。(M.H.)